

来週の市場とレート予想					
	12/5 (月)	12/6 (火)	12/7 (水)	12/8 (木)	12/9 (金)
無担保O/N	△0 . 0 8 6 % ~ 0 . 0 0 1 %				
銀行券	△ 400	△ 1,000	△ 1,000	△ 3,000	△ 3,000
財政他	△ 3,800	+ 3,000	+ 3,000	△ 4,000	ト ン
資金需給	不 4,200	余 2,000	+ 2,000	不 7,000	不 3,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還 (3M)				交付税特会借入・償還
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,500 CP等買入 △ 300				
オペスタート	共通担保(全店) + 1,500	国債買入 + 12,300 短国買入 + 5,000			
(日本)	黒田日銀総裁挨拶 (ハ'リ・ユーロプラス・ フィナンシャル・フォーラム)		岩田日銀副総裁挨拶(長崎) コール市場残高(11月) 景気動向指数(10月)	岩田日銀副総裁要旨 国内総生産(7-9月、改定値)	日銀当座預金のマ'ロ加算 残高の基準比率を見直し (12-2月積み期分)
(海外)	米 労働市場情勢指数(11月) 米 NY連銀総裁が講演 米 セントリス連銀総裁が講演 米 ISM非製造業景況指数 (11月) 欧 ユーロ圏総合PMI (11月、改定値)	米 貿易収支(10月) 米 製造業受注(10月) 欧 ユーロ圏GDP(7-9月、確定値)		米 新規失業保険申請件数 (3日終了週) 欧 ECB金融政策発表 欧 ドラギ'ECB総裁記者会見	米 ミシガン大学消費者マインド'指数 (12月、速報値)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.04 ~ 0.001
SPOT 2M	△0.05 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.05 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.05 ~ 0.001

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初314兆9,000億円から始まった。国債買入オペ・国庫短期証券買入オペを主因に11月30日には317兆7,000億円台まで増加した。その後、週末には税・保険揚げを主因に310兆4,100億円まで減少した。無担保コールON物は、△0.085%~△0.03%のレンジで取引された。なお、同加重平均金利は、週末3日積みとなる12月2日にレートが上昇し△0.049%となったが、その他の日は先週同様△0.054%~△0.051%のレンジで推移した。ターム物は、12月スタートの1W~2Wで△0.03%の出会いが見られた。12月2日に実施された国庫短期証券買入オペのオ'ファー額は5,000億円と、前回オ'ファー分(11月25日、オ'ファー額1兆円、応札倍率1.85倍)より5,000億円の減額となった。応札倍率は1.75倍となり、前回対比で低下する結果となった。来週の予定は、国内では、黒田日銀総裁挨拶(5日)、岩田日銀副総裁挨拶(7日)、日銀当座預金のマ'ロ加算残高の基準比率を見直し(9日)、海外では、NY連銀総裁講演(5日)、ECB金融政策発表・ドラギECB総裁記者会見(8日)などが挙げられる。

<CP>

今週の入札発行額は約13,800億円で、期落ち額約9,000億円(金融機関・ABCP除く)を大きく上回った。引き続き、賞与・配当シーズンで幅広い業種で大量発行が見られた。a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.0010%割れで推移した。現先レートの中心は、△0.100%~0.000%程度で推移した。来週の期落ち額は5,500億円程度となっている。

<TDB>

1日に国庫短期証券3M第649回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.3330%(前回債△0.2754%)、平均落札レートは△0.3408%(同△0.2873%)と前回債と比べて利回りは大きく低下した。セカンダリーは3Mで△0.388%近辺の地合いとなっている。6M、1Yは目立った出合いは見られなかった。来週7日に6M、8日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

月末取引となる30日受渡し'のGC 取引は、△0.12%~△0.13%の出合いから始まり、TNでも△0.10%台での取引が中心であった。12月入り後も△0.10%近辺で推移し、短国3Mの発行日である5日受渡し'も、△0.09%までの小幅上昇。週末には国債買入・国庫短期証券買入オペが合計1兆7,300億円オ'ファーされ、再度△0.10%近辺に低下し越'過した。SC取引では10年344回債のbidが週後半にかけて増加し、週末には△0.30%台半ばでの出合いが多く見られた。10年342,343回債は週を通して概ね△0.40%台前半~半ばで取引された。その他2年367・369・370回債、5年125・127・128・129回債、10年325・328・329・332・334・335・336・338・341・344回債、20年157・158回債、30年52回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。